

2年目を迎え、組合員の高齢化や農業機械の更新時期などの関係から利用者も増えており、稼働率は82・2%となっております。

一方、青果物については、新たに商標登録された「白神ねぎ」の販売額10億円以上を目指してプロジェクトを立ち上げ、ねぎ部会を中心に面積拡大等をお願いしてまいりました。おかげさまで年間通じて単価もよく出荷も終盤となっておりますが、目標達成に向けて生産者も作業に益々力が入っている状況です。また、みょうがは春先の低温と夏場にかけての雨不足が影響し、生育の遅れによる大幅な減収が心配されましたが、何とか販売額1億を確保できました。これからの山うどやアスパラガスの出荷に期待しております。

また現在、基盤整備事業を実施する轟地区を中心に、県が推進するメガ団地育成事業を導入し、面積約20ha、販売額1億円の大規模ねぎ団地の実現を目指して協議を進めております。予定では平成27年度から生産・販売がスタートし、県内第1号のメガ団地として白神ねぎの生産にも大いにはずみがつくものと期待しております。

畜産は円安の影響で飼料が高騰しており、特に肥育牛については

素牛価格が高値となっていることから、農家は厳しい状況が続いております。しかし出荷額は肥育牛、子牛、牛乳、比内地鶏ともに計画以上に推移しています。

花卉については、藤里地区で栽培されているリンドウが着実に面積を拡大し、現在2.5ha・栽培農家6人で、販売額も昨年度の1、500万から2、200万円に伸ばすなど、生産組合とともに「白神リンドウ」特産品化に向けて頑張っております。

平成25年の第136回種苗交換会は仙北市で開催され、当管内からはねぎ、リンドウ、生シイタケ、キャベツなどが農林水産大臣賞、県知事賞をはじめ、26点が受賞するなど、気象変動が激しく厳しい栽培環境の中にあっても、品質は高い水準にあることが認められました。市場関係者からは白神産農産物に対する引き合いが強く、安定供給に向けた生産拡大が求められております。今後安全安心な農畜産物の生産拡大を図り、消費者の要望に応えるとともに、農家所得の向上に繋げて行きたいと考えています。

農政においては、JAグループが総力を挙げて反対運動を繰り広げてまいりましたTPOP（環太平洋

洋戦略的経済連携協定）が、昨年中の妥結は回避できたものの新年早々にも閣僚級会合を開催し妥結を目指すとしており、予断を許さない状況となっております。特に農林水産分野の重要5品目など聖域の確保ができないと判断した場合、脱退も辞さないとした国会決議を厳守するよう引き続き強く要求してまいります。

昨年12月、国内農業において大幅な米政策の転換が発表されました。来年度からの経営所得安定対策の交付金見直しのほか、5年後には減反が廃止され、農地集約による大規模化が目指されるわけではあります。中山間地域の不利な所を含めて集約化が可能であるのか、また本作と位置付ける飼料用米の扱いなど問題が山積みであります。まだまだ議論が十分でなく、JAとしても中身をよく吟味して随時情報を組合員に伝えていく予定です。

新たな米政策のスタートに当たり役員一同全力で取り組む覚悟でありますので、本年も皆様の変わらぬご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつと致します。

理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	代表 監事	常勤 監事	監事	監事	監事	理事
工事	永事	戸事	中事	菊事	金事	佐事	渡事	桂事	大	清	市	
藤	塚	松	川	池	谷	藤	邊	田	山	水	川	
正	誠	義	正	幸	隆	謙	博	和	澄	英	讓	
徳	司	盛	一	子	夫	悦	博	弘	子	夫		

本誌をもって、年始のご挨拶とさせていただきます。